

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

南三陸町と台湾の絆 ～南三陸町で台湾との 交流を支える2人～



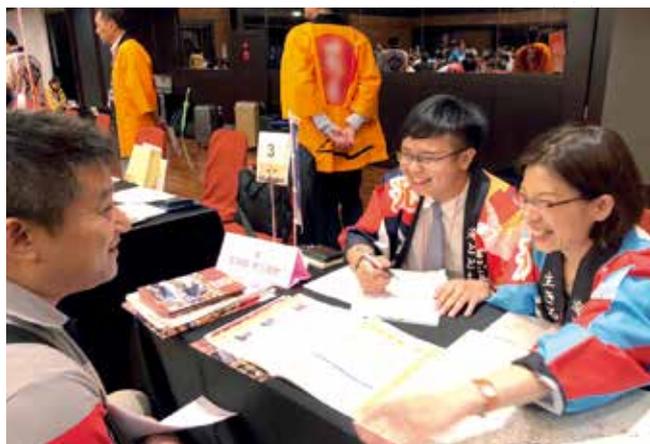
佐藤金枝さん

南三陸町国際交流協会 理事

陳忠慶さん

南三陸町観光協会 職員

台湾出身 南三陸町在住



台湾でのプロモーション活動

—ご出身について、日本にいらしたきっかけや南三陸町にお住まいの経緯など教えてください。

佐藤金枝さん(以下、金枝さん): 私は台北の出身です。日本が好きでよく旅行していた叔母の影響が大きく、日本についてたくさん話を聞いていたからでしょうか、私も興味を持つようになり、仙台の学校へ留学しました。そこで志津川出身の主人と出会い、結婚し、ここ南三陸町で暮らすことになりました。2011年には東日本大震災で被災し、2015年まで避難所や仮設住宅で生活していました。

陳忠慶さん(以下、陳さん): 私は国際空港がある桃園の出身です。大学3年生の時、九州の熊本大学へ1年間留学しました。帰国後、卒業まで時間が残り、何かできることはないかと探していた時、南三陸町の観光協会が夏休み中のインターンシップを募集していると知りました。ホテルや旅館ではなく、「観光協会」での仕事という点に興味を持ち、大学の先生に相談したところ、「行ってみたら」とアドバイスされ、応募を決めました。その当時は南三陸町についてはあまり知らず、町と台湾の繋がりはまだよく理解していませんでした。

—日本語はどのように習得されたのですか。

陳さん: 中学校時代、英語や数学が苦手だったので、進学先ではコンピューターか他の言語を学ぼうと考えていました。幼い頃祖父と日本の演歌など聞いており、日本語は身近に感じていたので、日本語学科のある高校に進むことにしました。高校では日本語を毎日勉強することになりましたが、英語や数学の授業もありがっかりしました。最初はあまり真面目に勉強していなかったので私の日本語はなかなか上達しませんでした。学習に対する姿勢が変わる転機がありました。高校2年生の夏休みにあった日本文化祭です。日本の大学生が私たちの文化祭に参加してくれて、接する機会があったのですが、私は自分の伝えたいことが上手く伝えられず、そして相手の話を理解できず非常にもどかしい思いをしました。この体験がきっかけとなり、真剣に日本語学習

に取り組み始めました。会話を上げるために会ったことのない日本人とSkypeで話をして練習したこともありました。

—南三陸町と台湾の交流はどのように始まったのでしょうか。

金枝さん: 東日本大震災のあと、台湾からたくさんの方の義援金を送っていただいたことは皆さんも知っていると思うのですが、被災した南三陸町の病院を再建する時、資金の4割が台湾赤十字からの支援金であったことがひとつのきっかけになりました。宮城県が支援への感謝を示すため台湾でプロモーション活動を始め、南三陸町も2014～15年頃から県と一緒に活動をするようになりました。私は、震災後に海外から南三陸町を訪れる方々の通訳をする機会が増えましたが、その後震災の語り部としても活動するようになりました。

—どんなことをしたのですか。

金枝さん: 台湾はもちろん世界中の方々に支援への感謝や町の復興の様子を伝えるため、町は観光情報の発信や旅行者誘致に力を入れ始めました。そうしたなか、2016年に南三陸町観光協会は台湾南部の大学生をインターンシップとして招きました。第1期生は総勢19名で、彼らはホームステイしながら、情報発信やイベントのサポートを行いました。観光協会が海外からインターンシップ生を受け入れるのは初めてのことだったので、試行錯誤していたようです。1期生は台湾の各大学で日本語を学んでいる人ばかりで、彼らの語学力が非常に高いことに驚きました。また彼らが南三陸町を選んでくれたことを感謝しました。同時に若者たちの明るさやたくましさを感じ、彼らが台湾へ帰国した後、南三陸町や日本で得たことをどのように種まきして育てていってくれるのかと期待する気持ちが大きくなりました。陳くんもその1期生のひとりでした。彼は明るく人懐こくて、ニックネームの「たいよう」は彼にぴったりだと思いました。

—南三陸町でのインターンシップはどうでしたか。

陳さん: 宿泊は町内のお家で、学生2人ずつに分かれて2か月間お世話になりました。震災から5年経っていましたが、まだ復興途中でかさ上げ工事が続いている、お世話になった家族も自宅の再建直後で大変だったはずなのに、温かく受け入れ

てくれました。あれから4年近くたった今でも時々ごはんを食べに行ったりして、親しくさせてもらっています。観光協会での仕事は主に3つあり、中国語への翻訳、記事作成とホームページやSNSからの情報発信でした。他には日本語の能力を買われて、日本語で記事をウェブサイトに掲載したりしました。南三陸町の元気を伝えることが私たちの役割でした。

——インターンシップ後に南三陸町観光協会へ就職された経緯についても教えていただけませんか。

陳さん：台湾の兵役に就いていた時、南三陸町観光協会からオファーをいただきました。軍隊生活残り3ヶ月のときで将来について色々考えていた時でした。1週間くらい悩みましたが、若いうちに何でもやってみよう!と決めました。南三陸町の人情味あふれる方々が忘れられませんでした。南三陸の魚介類、特にタコ、わかめ、めかぶを愛してやまない私ですが、町の人たちは「たいようくん、どうしている、元気?」と気さくに話しかけてくれますし、お米、野菜、海産物やお惣菜などを度々いただいています。そのせいでしょか、ここで働き始めて2年ほどの間に10キロ増えてしまいました。それからここでの生活は、金枝さんがいらっしやることも大きいです。相談できる人が近くにいると安心できますし、とても頼りにしています。

——金枝さんと陳さんは、南三陸町のプロモーションや宮城県招請事業のため、両国の間を行ったり来たりしていたそうですね。

金枝さん：そうです。以前は、台湾に住む妹たちは日本からのお土産を喜んでくれましたが、最近は帰国の頻度が増えたので「前回のお土産がまだあるから、いらないよ」と言われてしまいました。

陳さん：私はこの1年で5回帰国しました。おかげさまでホームシックにはなっていないです。

——陳さんたち台湾の学生によるインターンシップが始まったのと同時頃、南三陸町は台湾の高校生が町を訪れる教育旅行(修学旅行)に積極的に取り組み始めたようですね。

金枝さん：台湾との交流活動を積極的に行ってきた中で、台湾の教育旅行先として南三陸町を選んでもらえるようになりました。南三陸町での震災学習や民泊などたくさんのお出会いと学びを体験してもらいたいと取り組んでいます。とにかく南三陸町の住民のみなさんは、支援してくれた方々に感謝を伝えたいと訪れる学生をホテル、民宿だけでなく民泊でも受け入れています。

陳さん：2015年に受け入れが始まった教育旅行の参加者は、2019

年の11月に累計1,000人を超えました。南三陸町はPRのため台湾を訪問し、学校関係者向けに毎年プロモーション活動を行っています。高校生向けの1泊2日の訪問が多く、たくさんの方のことを体験することはできませんが、語り部の金枝さんに震災体験を話していただいたり、民泊体験や時には志津川高校を訪問して幅広い世代との交流を深めたりしています。

金枝さん：南三陸町では、台湾の学生を受け入れるだけではなく、南三陸町の子どもたちを台湾へ送り出して交流の場を設けています。2018年11月には4人の高校生が台湾を訪問しました。たいようくんがいる観光協会が受け入れに尽力する一方で、私たち国際交流協会は送り出しに力を入れ、子どもたちの視野を広げてもらうための取り組みをしています。南三陸町はこれらの相互交流についても、人口1万人余りの小さい町の利点を生かし、各団体が密に連携をとり協力合っています。3月に中高生8人を以前教育旅行で来町して交流した嘉義の高校へ送り出す予定でしたが、残念なことに新型コロナウイルス流行により中止となってしまいました。現在は次回実施に向けて取り組んでいます。

——今後についてお二人の予定や希望を教えてください。

金枝さん：この町は台湾の田舎町と同じ雰囲気があります。住民には温かみや包容力が感じられます。震災後、しばらくは下を向いて歩いていた人たちが、ある頃から前を向くようになりました。彼らの立ち上がりとする前向きな姿や精神的な強さに感銘を受けました。私には同じように乗り越えることはできないと落ち込んだほどでした。今は町のみなさんのように私もまたお世話好きな住民の1人として、この町の復興に携わっていますし、これからも続けていくつもりです。

陳さん：南三陸町観光協会の職員となって間もなく3年目になります。まだまだ取り組みたいことがたくさんあります。この町の多くの方々は、台湾を訪れる機会をなかなか持てないのですが、台湾の人に感謝していることを伝えたい気持ちはとても強いです。台湾の学生が南三陸町へ来てくれるようになりませんが、高校生の宿泊は1泊だけなので、もっと長く滞在してもらいたいです。そしてほかの世代の方々にも来ていただきたい。そのために色々なプログラムを企画し、情報発信をして、この町の皆さんと一緒に招き寄せていきたいです。

*このインタビューは、WEB会議システムを利用して行いました。

「みやぎ外国人相談センター」から

みやぎ外国人相談センターは宮城県にお住いの外国籍の方々やその支援をされている日本の方々の日常における様々な困りごとに、多言語で対応しています。令和元年度から機能をさらに充実させていますので、ぜひお気軽にご相談ください!

【みやぎ外国人相談センター】

☎022-275-9990

対応日時：月曜日～金曜日 9:00～17:00

対応言語：13言語

(英語、中国語、韓国語、タガログ語、タイ語、ネパール語、ヒンディー語、ベトナム語、インドネシア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、日本語)

仙台弁護士会、宮城県行政書士会他、関係機関とも連携しています。

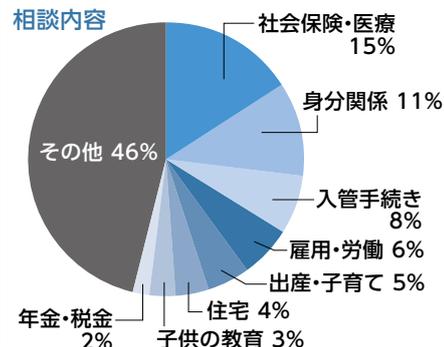
多言語コールセンターと契約し、電話での対応言語が13言語に増えました



ネパール語相談員が新たに仲間入り

令和元年度相談受付実績

件数:251件
言語別:日本語114件、英語43件、中国語42件、韓国語12件、ネパール語12件、ベトナム語11件
その他言語17件





MIA私費留学生 緊急支援貸付事業のご案内

当協会では、宮城県内の大学、大学院、短期大学で学ぶ外国人留学生(正規生)のうち、私費留学生を対象として、緊急的な生活資金の貸し付けを行っております。貸付対象となる経費は、生活費、住居費、医療費、一時帰国費等としており、20万円を上限として、無利子です。平成3年の事業開始以来、現在まで32カ国、359名の方にご利用いただいております。

詳しくは、当協会のHPをご覧ください。か事務局までお問い合わせください。

みやぎの国際活動団体DIRECTORY 更新情報をHPで公開しています

「みやぎの国際活動団体DIRECTORY」は、宮城県内の国際活動団体(国際交流、国際協力)に携わる団体及び関係機関をまとめ、当協会のHPで公開しているものです。(公財)仙台観光国際協会と共同で情報を収集し、毎年情報の更新を行っています。掲載団体は、6つのカテゴリー:①県内市町村国際交流協会、②親善交流を主たる目的とする団体、③特定の国や地域との親善交流を主たる目的とする団体、④国際協力や支援を主たる目的とする団体、⑤在住外国人が主たる会員の活動団体、⑥在住外国人相談支援活動団体に分けられています。ぜひご覧ください。

URL: <http://mia-miyagi.jp/ngo.html>

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「日本語初級から学ぶ 日本文化 / A Textbook on Japanese Culture for Beginners of Japanese」

著者:東北大学日本語教材開発グループ

本書は、初級日本語学習者が日本の文化や習慣について短い文章を読み、その内容について情報や意見を交換することを目指して作成されています。第1部では、「ウォームアップ」として単語や短い文を学びます。第2部「本文」では、日本の文化を「四季」「習慣」「伝統文化」「現代の人間関係」の分野に分かれたトピック、例えば「桜」や「おじぎ」があり、ことばのキーワードなどから新しい漢字を学習できます。また巻末には「文法項目一覧表」と「索引」があります。



MIAにおける新型コロナウイルス感染症の影響



今年3月ごろから新型コロナウイルスの感染が日本国内でも急速に広まり、当協会の事業も大きな影響を受けています。3月に開催を予定していた市町村日本語教室連絡会議や日本語ボランティアセミナーは中止となりました。

年度が変わっても感染の拡大はますますその勢いを増すばかりで、4月開講の日本語講座も中止を余儀なくされました。東日本大震災のときも1ヶ月遅れで開講していましたが、日本語講座の中止は当協会としても初めてのことで、また、外国人支援通訳サポーターや外国籍の子どもサポーターの派遣、日本語サポーターの日本語学習支援活動、小中学校等への外国人講師派遣も休止、見合わせとなっています。

みやぎ外国人相談センターでは、新型コロナウイルスに関する相談が増えています。感染の疑いを心配し医療機関の受診やPCR検査を求める相談もありましたし、アルバイトを失って生活に窮している留学生からの相談、あるいは夫婦関係に悩む相談も間接的には今回の感染拡大の影響を受けているようでした。外国籍住民にとっては一時的な帰国も望めず、そのことも大きなストレスとなっているようです。

一方で、新しい取り組みも始まっています。外国人支援通訳サポーター現地派遣の代替策としてWeb会議システムや電話を利用した遠隔通訳を開始しました(「サポーターの声」欄にて別途紹介)。近年、希少言語の通訳者確保が難しくなりましたが、遠隔通訳はこの問題も解消できる可能性があり、これを機に当協会としても経験を積みながらノウハウを構築し、さらなる充実を目指しています。また、このWeb会議システムを活用した日本語学習支援も試験的に進めていて、こちらも将来的には県内の日本語教室や日本語サポーターの活動に貢献する新たな支援方法をお示しできればと考えています。

(上記はすべて4月末日時点です)

MIA情報便



このコーナーでは、MIA宮城県国際化協会の最近の動きをお知らせいたします。
 いずれの件も、お問い合わせは ☎022-275-3796 ✉mail@mia-miyagi.jp まで。お気軽にどうぞ。



インターネットを利用した保健医療通訳サポーター自主学習会

新型コロナウイルス感染拡大により、MIAの施設利用も休止となり、3月から保健医療通訳サポーターの各言語の自主学習会も休止を余儀なくされました。そうしたなか、英語グループのメンバーからZoom(Web会議システム)を利用した自主学習会が開催できないかとの声が上ががり、参加メンバーとMIAで話し合い、4月16日(木)に初のZoom自主学習会が行われました。機器の設定や操作に戸惑う方もいましたが、始まってしまえばいつもの自主学習会が展開されました。参加されたメンバーによれば、「チャットや画面共有などの機能を使うことでより効果的な学習ができた」「これまでの対面型とは形式が異なるため学習会の進め方についても様々な意見が交わされ、結果として学習会の質が向上している」といった良い面もあったようです。また、「これから災害時などの場面で活用することも考えられるので、これを機にいろいろな機能もマスターし、スムーズに利用できるようにになりたい」との心強いコメントもありました。進め方を模索しつつ、今後も月に1、2度のペースで開催される予定です。



自主学習会に参加する国際交流員(CIR)

みやぎの国際活動団体 「外国人支援の会 OASIS」(会長 反田恵美子さん)

私たち外国人支援の会 OASIS(オアシス)は、仙台国際センターにある仙台多文化共生センターの相談・情報カウンターで仙台観光国際協会(SenTIA)の職員とともに英語や中国語で情報提供や相談受付をしています。私たちのボランティア活動は国際センター開館と同時に始まり、30年ほどになります。かつては、観光やイベント等の情報提供が多かったのですが、近年は複雑、深刻そして専門の知識が必要な相談が増えています。専門機関へお繋ぎすることが多いですが、お悩みを聴くだけのときもあります。仙台や日本での暮らしについて多様な相談があり、長年活動していても知らないことがたくさんあり、こちらも成長させてもらっています。また相談の延長として、色々な機関と一緒に通訳をしています。近年は、付き添い通訳が年間100件ほどあり、8割は東北大学留学生及びその家族です。育児や子どもの教育に関わる事が最も多く、次に運転免許、住宅関係と続きます。私たちボランティアの知恵と経験で語学力を補いながら、これからも不安を感じている外国人に寄り添って支援していければと思っています。



仙台多文化共生センターの相談受付カウンターにて

検索 (公財) 仙台観光国際協会 仙台多文化共生センター

サポーターの声 塩屋ドリスさん MIA外国人支援通訳サポーター (スペイン語)



新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は4月から通訳サポーターの現地派遣を休止し、WEB会議システムなどを利用した遠隔通訳を行うこととしましたが、このたび4月末に初の保健医療分野の遠隔通訳を実施しました。ご協力をいただきました塩屋ドリスさんによると、「ふだんから海外にいる家族や親戚とWEB会議システムを使ってやりとりをしているので、全然違和感はありませんでした。むしろ面識のない通訳者が現場にいないことで、通訳を必要とされている外国人にとっては緊張せずリラックスしてお話しただけにいたるようにも感じます」とのことでした。

MIA外国人支援通訳サポーターとは

医療機関や公的機関からの要請に応じて、保健・医療あるいは生活相談の通訳サポートを行う方々です。当協会が実施する実務研修会を受講した県内在住の20歳以上、また国籍を問わず通訳可能な語学力がある方にご登録していただいております。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員 / 1口 3,000円
団体会員 / 1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎ 協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)

- ◎ 当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎ 個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
宮交観光サービス(株)
- ◎ 企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎ 本協会あてご連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.109
 編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会
 〒981-0914
 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
 宮城県仙台合同庁舎7階
 TEL 022(275)3796
 FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL http://mia-miyagi.jp

